

まちに清流を取り戻す

背景

有名な「飲水思源」の言葉があります。水を飲む時には上流に想いを馳せましょう、の意味です。水を大切に、の教えの言葉です。これを川に当てはめてみたいと思います。今日のように都市化が急速に進んでいる中で、下流の都市的地域で川が清流を保っていることは少ないと思います。しかし、昭和三十、四十年代にはまだ清流が残り、ザリガニやドジョウを捕まえ、時にはフナを追いかけて男の子女の子入り混じって遊んだ記憶があります。河川整備で壁がコンクリートになってもかまいません。努力と工夫、熱意と連帯により、あの清流を取り戻すことは可能なのではないのでしょうか。

方法

- (1) 清流保存会(仮称)とか清流を取り戻す会(仮称)を結成し参加者を募るのです。イベントとして様々な行事をしますが、頻繁にやる必要はありません。けれど毎年同じ時期にある行事、と言われる程度には行ってゆきたいと思います。
- (2) その一は清掃です。その二は鯉など生き物の放流です。その三は川に浮島をつくり草を生やすことです。
- (3) これだけで汚れの防止につながり、川が着目されてきれいにしよう、きれいな川を維持しよう、出来たら生き物が棲める川にしようという意識が高まってゆきます。
- (4) そうしたらしめたものです。仲間を募り、倶楽部的活動に発展させ、やがて町内会ともタイアップして規模を大きくさせ、持続可能なものにしてゆくのです。
- (5) 行政に地域振興的なセクションがあればタイアップし広報宣伝やつながりづくりに協力してもらおうのです。

効果

- ・子どもたちにとって大切な情操教育の有効な一助になります。
- ・子どもたちや親子連れ、そしてゆくゆくは三代など家族揃っての憩いの場に川がなってゆきます。
- ・地域を見つめ、いい状態をつくって保ち、引き継いでゆく絆が高まります。
- ・さらにあらたな地域の動きにつながり、再生させてゆく原動力にもなります。
- ・中流や下流を清掃等しながら上流を思い、やがて地域間交流の虹の架け橋ができてゆくという明るい展望を持つことが出来ます。
- ・九州一の清流、または当該県一の清流などのキャッチフレーズで地域自慢や宣伝ができます。